

I 建学の精神・短期大学の基本理念 使命・目的、短期大学の個性・特色等

I. 建学の精神・短期大学の基本理念、使命・目的、短期大学の個性・特色等

1. 八戸学院大学短期大学部の建学の精神と教育理念

「神を敬し、人を愛する」

八戸学院大学短期大学部は、カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することを建学の精神とする。

図1 八戸学院大学短期大学部「建学の精神」

八戸学院大学短期大学部（以下、本学）の設置母体である学校法人光星学院（以下、法人）は、昭和 34(1959)年 3 月、洗礼名ヨゼフ中村由太郎（初代理事長）によって創設された。中村由太郎は自らの苦学の体験とキリスト教信者としての愛と奉仕の精神を基に、「若人に教育を与え、人格の陶冶を図り、地域社会の発展に寄与する人材を育成せん」と願い、「神を敬し、人を愛する」を建学の精神に掲げた。

中村由太郎の教育に対する並々ならぬ思いは、昭和 31(1956)年 4 月、光星学院高等学校（現校名：八戸学院光星高等学校）設立にあたって起案された設立趣意書に込められている。すなわち、「進学の希望が満たされない多くの少年達を放置している事態は、地方教育界の未曾有の大事である。純真澁刺たる多くの若人達の栄えある前途にこそ偉材が潜みいることを思い、進学の道を平にして彼等に光明を与え、秘めたる天分を見出し、その天分を遺憾なく発揮させ、真に人類社会の進歩発展に寄与せしめんとするものである」。

昭和 46(1971)年 7 月、中村由太郎は法人の理想とする「立体的総合学園」構想を打ち出した。そこには「幼稚園－中学校－高等学校－短期大学－四年制大学－大学院と正規の学校から、社会人を対象とする成人教育を含む生涯教育の場を完成し、この全学を一つの指導原理によって貫き、真に時代が要請する有用人材を育成しよう」と法人の将来展望が示され、「前途尚遼遠を思わせるものがあるが、急がずあせらず、着実に実行をして完成を期する」と強い決意が表明されている。

このような建学の精神、理念を踏まえ、法人の理想実現に向けて、昭和 46(1971)年 4 月、八戸短期大学（現校名：八戸学院大学短期大学部）が開学した。建学の精神は「神を敬し、人を愛する」という言葉に端的に表現され、さらに、「カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成する」と述べられている。また、教育理念として「教育基本法及び学校教育法に基づき、カトリック精神に則り、広く豊かな教養をもち、正しい道德観と高い知性を有する青年の育成に努め、21 世紀の要求している人間の育成、特に地方の時代の到来にこたえ、地方文化や地域経済に密着した教育をする」ことを掲げ、開学以来今日に至るまで受け継がれている。

近年、急激な少子化が進行する中で本学の一層の充実・発展を期するためには、改めて建学の精神、理念に立ち返り、理想実現に向けて法人が一体となって地域と連携を強化する必要があるとの決意がなされた。そこで、法人内すべての学校名に「八戸学院」を冠して統一性を図るとともに、法人を象徴するロゴマークを作成した。それにともない、平成 25(2013)年 4 月に校名を「八戸短期大学」から「八戸学院短期大学」へと変更し、さらに、

平成 29(2017)年 4 月、八戸学院大学との一層の連携強化を図り、「八戸学院大学短期大学部」と名称変更した。

本学のロゴマークは図 2 のとおりである。



八戸学院大学短期大学部

図 2 八戸学院大学短期大学部ロゴマーク

ロゴマークは郷土の「南部菱刺（ひしぎし）」をモチーフにして、八戸の「8」と「無限」の記号をデザインしたものであり、「八戸を愛する心」と「無限の可能性」を象徴している。シンボルカラーは日本の伝統色である臙脂色（えんじいろ）であり、これは内に情熱を秘めながらも、冷静、沈着な思考力と行動力に富む人材をイメージしている。

2. 八戸学院大学短期大学部の使命・目的

本学の使命・目的は建学の精神および教育理念に基づき、「八戸学院大学短期大学部学則」第 1 条第 1 項に、「カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道德観と高い知性を有する民主主義的にして平和を愛好する人材を育成する」と定めている。

本学は昭和 46(1971)年に幼児教育学科（平成 16(2004)年、幼児保育学科に名称変更）をもって開学し、16 年後の昭和 62(1987)年に経営情報学科（平成 16(2004)年、現代ビジネス学科に名称変更）を増設した。この 2 学科体制がしばらく続いたが、学生のニーズの多様化を考慮して、平成 18(2006)年に現代ビジネス学科をライフデザイン学科へと改組転換し、さらには地域社会の医療福祉へのニーズに応えるべく、平成 21(2009)年に 3 年制の看護学科を増設した。その後、看護学科はより高度な教育を目指して平成 28(2016)年 4 月に 4 年制の「八戸学院大学健康医療学部看護学科」へと改組し、一方、ライフデザイン学科は平成 30(2018)年に学生募集を停止した。

平成 31(2019)年 4 月、新たに介護福祉学科を設立し、本学は幼児保育学科と介護福祉学科の 2 学科体制となった。各学科の教育理念・目的・目標は以下のとおりである。なお、介護福祉学科では完成年度を迎えるにあたって見直しを行い、令和 3(2021)年 4 月に改訂を実施した。

・幼児保育学科

<教育理念>

愛と知性に富み、常に自らの専門性の向上を目指す保育者を育成する。

<教育目的>

理念と実践の融合を図り、保育者として社会の発展に寄与できる人材を育成する。

<教育目標>

1. 専門的知識と技術を有し、子どもの発達過程に応じて豊かな保育環境を構成することができる保育者を養成する。

2. 自らの責務を理解し、他の保育者や専門職者と協働して、子どもの最善の利益を追求することができる保育者を養成する。

・介護福祉学科

＜教育理念＞

高い倫理性を持ち、幅広い教養や総合的な判断力及び豊かな人間性を備え、地域社会の多様性や変化に対応し、地域共生社会の実現のために、福祉・介護サービスにおいて中核的な役割を担う職業人を育成する。

＜教育目的＞

介護の諸活動を、専門職として、主体的、自律的、合理的に展開する能力と態度を育てるとともに、高い教養を身につけることにより、尊厳と自立を支えるケアを実践し、地域や社会のニーズに対応しながら福祉社会に貢献できる人材を育成する。

＜教育目標＞

1. 介護に関連する諸制度を理解するとともに、介護の専門的知識技術を有し、自立支援、望む生活を支えるという視点から、介護実践できる能力を身につけた介護福祉士を養成する。
2. 利用者や家族の援助のためのコミュニケーション能力と、関連分野に関する基本的事項について確かな理解を持ち、多職種協働チームにより、介護過程を展開できる介護福祉士を養成する。

3. 八戸学院大学短期大学部の個性・特色

青森県内には5校の短期大学があるが、津軽地域に4校の短期大学が偏在し、県南地域には本学1校のみが所在している。

9割以上の学生の出身地が青森県内であり、多くは近隣の市町村から通学している。残る学生のほとんどは近隣の岩手県沿岸の久慈市・洋野町、内陸の二戸市・軽米町から入学している。交通の便が良い立地ではないが、スクールバスの路線を整備しており、また、地方の特性として自家用車の所有率が高いことから、自宅通学の学生が多い。卒業後は毎年多くが保育士、幼稚園教諭、福祉施設職員等の専門職者として、出身地域に就職しているが、最近では首都圏や仙台への就職が増加する傾向にある。

このように、本学は学生の出身地、就職先ともに地域と密接に関わっているが、在学中の教育活動も地域資源を活用して行われている。

まず、両学科ともに地域の施設において実習が実施されており、それもあって地域の施設におけるボランティア活動が盛んである。幼児保育学科の必修科目であるゼミナールでは、地域の幼稚園、保育所、福祉施設等での活動が多く見られる。

また、地域にある大学として、地域の行事に参加するとともに、学内行事を市民に開放している。八戸七夕祭り前夜祭の「八戸小唄流し踊り」には毎年全学を挙げて参加し、中心街を飾り付ける吹き流しも教育の一環として制作している。幼児保育学科では三陸復興国立公園内の白浜海岸で「砂浜彫刻」を行い、学生祭で実施する「子どもの部屋」や「はちのへこどもフェスタ」に参加して上演する「ミニオペレッタ」には、毎年多くの地域の子どもと保護者が訪れている。さらに、地域の子どもや高齢者を対象に、両学科とも教員の専門性を活かした継続的な活動も展開されている。令和2(2020)年度に関しては、新型

コロナウイルスの感染防止対策として多くの行事が見直しを迫られ、中止や規模縮小になったものもあるが、その中でも伝統を次年度につなぐための工夫と努力が払われた。

このように、地域をキャンパスとした教育研究が展開されているのが本学の大きな特色だが、介護福祉学科については、加えて留学生の受け入れという特色がある。開設初年度の令和元(2019)年にはフィリピン出身の4人の学生が、令和2(2020)年には中国出身の1人の学生が入学し、フィリピンの4人は令和3(2021)年3月に全員が卒業して青森県内の福祉施設に就職した。留学生の受け入れについては課題も少なくないが、地域からの介護福祉人材供給の強い要望を受けて取り組んでいる。